

平成 28 年 11 月 16 日（水）～17 日（木）
第 5 回日本精神科医学会学術大会（宮城県）

ある認知症高齢者の「人生紙芝居」を実践して

聖志会 渡辺病院 作業療法課
菊池多恵 林田綾 室谷早紀

【はじめに】エリクソンによると、老年期は人生を振り返り、自我の統合が行なわれる時期とされている。人生聞き取りの効果としては、生活歴の再確認、発語量の増加、表情の好転、実施者との信頼関係の構築があげられる。今回、我々は、ある患者様の人生を聞き取り、その内容をまとめ自分史を作った。それを基に「人生紙芝居」を作り、本人および他の患者様に紹介することによって、本人の精神的な安定がみられたため若干の考察を加えて報告したい。

【倫理的配慮】個人情報取り扱い留意し、本人、ご家族の同意を得た。

【人生を聞き取った患者様】アルツハイマー型認知症 女性 80 才代

【方法および注意点】同意を得た患者様に対して幼少期、成人期、高齢期の生活を聞き取った。聞き取りの注意点として、共感しながら聞き役に徹し、否定せず、回数も複数回に分割した。その後、聞き取った実施者が、「人生紙芝居」として作成し、職員、他の患者様に聞いてもらった。

【結果】人生を聞き取った実施者と患者様に、信頼関係が生まれた。次に、紙芝居中、本人は終始うなずいて、ある特定の場面では笑顔を見せていた。他の患者様は、大多数の方が関心を見せ、「人生紙芝居」に聞き入っていた。同席した職員は、「通常の現病歴では、このような詳しい生活歴を知ることができず、非常に今後の看護に役立つ」と言われた。

【考察】今回、人生を聞き取ったことにより、患者様は人生を総括することができ、実施者との信頼関係がうまれた。「人生紙芝居」を実践したことにより、他の患者様には、集団精神療法的効果により、共感や、自分の人生を振り返る機会を与えることが出来た。職員は、より詳細な生活歴を知ることが出来た。しかしながら、個人情報の取り扱いや、より深い心理的葛藤を再燃する危険性もあり、慎重に症例を選んで実践しなければならないと思われた。